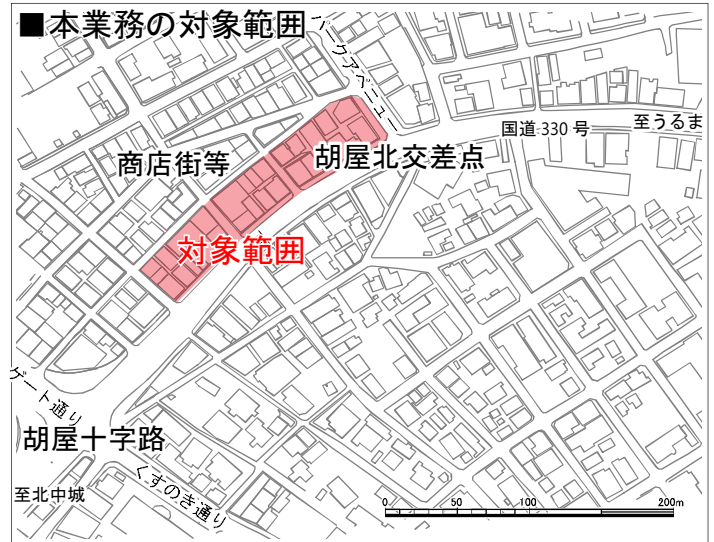


令和4年度 交通拠点整備基本構想検討業務

1. 業務の目的

- 令和3年度において、本市ではビジョンに基づき、国や県と連携し、本市等における現状及び課題等を踏まえ、胡屋地区に望ましい交通結節点を踏まえた交通・回遊機能の検討を行った。
- 本業務では、胡屋地区周辺の地域住民の合意形成や機運醸成を図るとともに、胡屋地区における交通・回遊を踏まえた交通拠点整備基本構想の検討を行った。



2. 都市間交流イメージ

- 沖縄市胡屋を中心とした都市間交流イメージを更新しました。



3. 胡屋地区の将来イメージ(再掲)

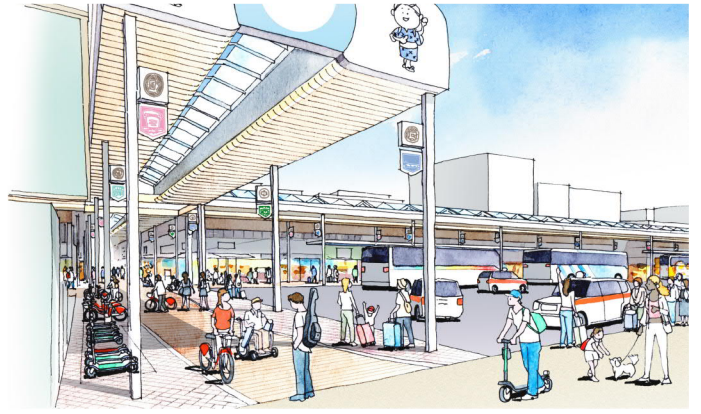
- 令和3年度では、交通結節点の検討にあたり、胡屋地区の将来イメージの整理を行っている。

※下記の図は配置(案)であり、決定したものではありません。

○商店街側からの視点



○国道330号歩道側からの視点



4. 方針及び取組(案)

- 交通拠点整備基本構想を整理するにあたり、将来像及び方針を整理し、胡屋バスターミナルを中心とした方面別の取組方針を整理した。

【方針①】だれもが楽しめる、居心地がいい場づくり

- 沖縄市の商業の中心である胡屋地区(一番街商店街地区、中央パークアベニュー地区、コザゲート通り地区)において多様な人が訪れ、魅力的な空間を心地よく歩き、ついで、たずむことができる拠点の構築を図ります。

取組み(案)

○地域の魅力向上

- より長く滞在してもらえ場所の創出
- 魅力を感じて訪れてもらえる場所の創出
- 住みたいと思う人が暮らせる場所の創出
- 交流、憩いの場の創出
- 地域イベントにも活用できる空間の創出
- 商店街の道路空間を活用した魅力の創出

【方針②】まちとまちとの結びつきを強くする場づくり

- 本島中南部の一体性を高める社会インフラとして位置づけられている基幹バスシステムと連携し、沖縄本島全体が抱える交通課題への改善や、交流機会の創出につながるよう、交通拠点機能の構築を図ります。

取組み(案)

○都市間のアクセス機能の向上

- 那覇市と沖縄市を結ぶ軸となる基幹バスシステムとの連携
- 路線バス、観光バス、高速バス、タクシー等との連携
- まちづくりと連携した駐車場施策の促進
- 行先が分かりやすい乗降場、上屋、待合所、デジタルサイン、インフォメーションセンター等の整備

【方針③】まちなかの結びつきを強くする場づくり

- 地域内のアクセス性、回遊性を高めるため、様々な交通手段との乗り継ぎ機能の強化を図り、誰もが移動しやすい環境の構築を図ります。

取組み(案)

○地域内の回遊性向上

- バス(路線、循環、シャトル)、タクシー、その他交通手段(シェアサイクル、高齢者用乗り物、観光用乗り物等)との連携
- 歩いて楽しい(ウォークアブル)空間の創出
- バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進

【方針④】KOZAの歴史・文化が感じられる場づくり

- 南北の商業景観軸と東西の交流景観軸が交わる沖縄市の顔となる地域として、KOZAの歴史や文化を感じることが出来る空間の創出を図ります。

取組み(案)

○沖縄市が持つ個性的な空間づくり

- 国際色豊かな街並みの形成
- KOZAが感じられる空間の形成
- 沖縄市の玄関口にふさわしい空間の形成
(国道330号、パークアベニュー、ゲート通り等)

【方針⑤】より安全で安心なまちづくり

- 訪れやすい安全で安心な環境づくりを目指します。また、災害時における防災情報などが取得できる環境づくりを目指します。

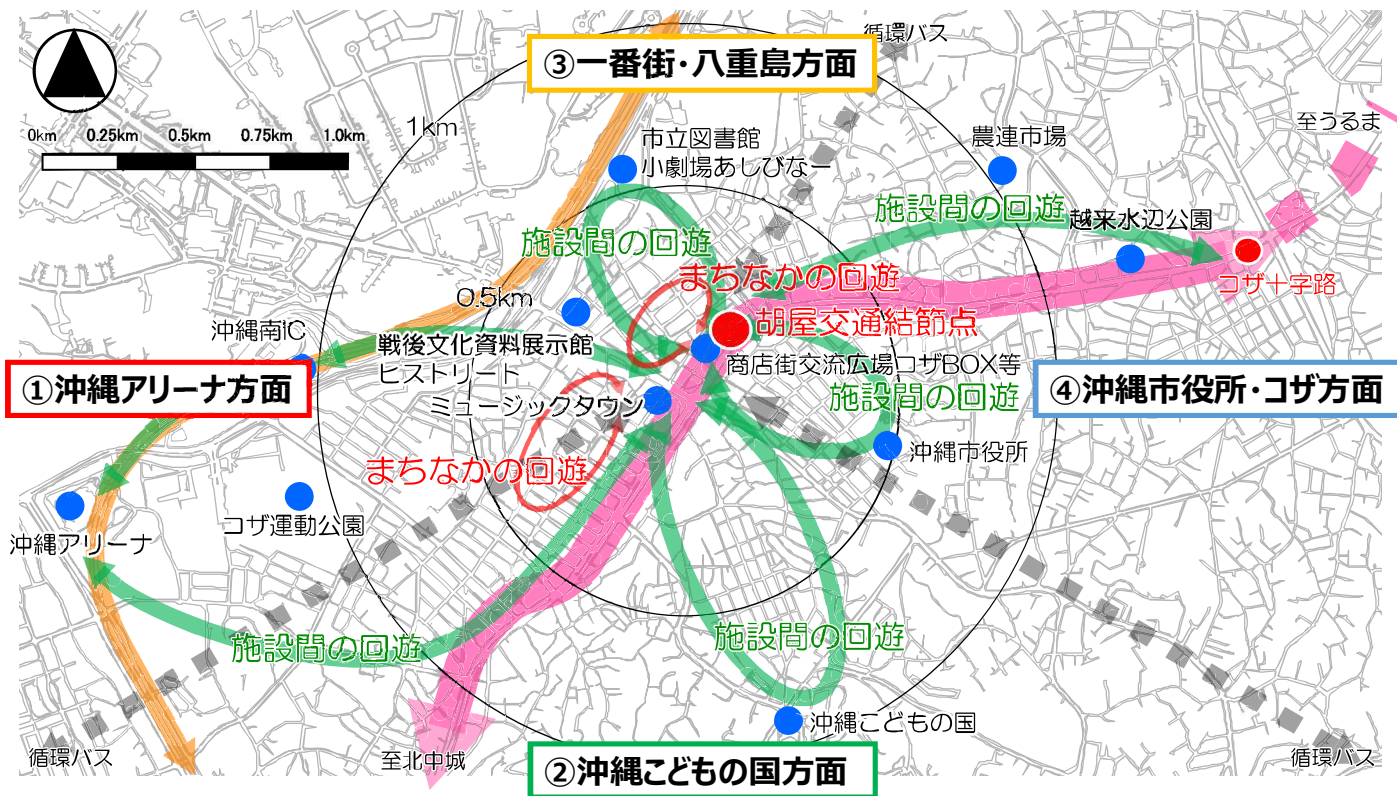
取組み(案)

○防災・防災機能の向上

- 防災情報(警報、注意報等)や交通機関の運行情報等の情報発信
- 一時避難所としての待合所・広場の活用
- 安全・安心なまちの創出(防犯・交通安全)
- 沖縄アリーナとの連携
- Wi-Fi等、災害時・緊急時の通信手段の確保
- 無電柱化

5. 胡屋バスターミナルを中心とした回遊イメージ

- 胡屋バスターミナルを発着点に、各方面の回遊性を高める構想を検討した。



6. 基本構想(案)イメージ

- 交通拠点整備基本構想を整理するにあたり、将来像及び方針を整理し、胡屋バスターミナルを中心とした方面別の取組方針を整理した。

沖縄市中心市街地活性化基本計画 基本方針 (※第3期検討中)

- (1) 歴史文化やまちの個性、人々を魅了するエンターテインメントの力をいかしたにぎわいづくり
- (2) 地域・住民・来訪者にとって快適で良好なまちづくり

交通拠点整備基本構想(案)

本基本構想では、胡屋バスターミナルを中心としたまちづくりの基本方針、バスターミナルの機能を整理しました。

将来像：KOZAのみんなで作る、活力に満ちたまち

- 【方針①】だれもが楽しめる、居心地がいい場づくり
- 【方針②】まちとまちとの結びつきを強くする場づくり
- 【方針③】まちなかの結びつきを強くする場づくり
- 【方針④】KOZAの歴史・文化が感じられる場づくり
- 【方針⑤】より安全で安心なまちづくり

① 沖縄アリーナ方面

- ・ スポーツを楽しむ、盛り上げる環境の創出
- ・ まちの個性(商業・文化・歴史)をいかしたにぎわいの創出
- ・ 安心して暮らせる環境の創出

② 沖縄こどもの国方面

- ・ 沖縄こどもの国へ訪れやすい環境、にぎわいの創出
- ・ 安心して暮らせる環境の創出

胡屋バスターミナル機能

- 【基本機能】
- 【交通結節機能】
- 【防災機能】
- 【地域の拠点・賑わい機能】
- 【サービス機能】
- 【景観機能】

③ 一番街・八重島方面

- ・ まちの個性(商業・文化・歴史)をいかしたにぎわいの創出
- ・ 安心して暮らせる環境の創出
- ・ 市の玄関口にふさわしい空間の創出

④ 沖縄市役所・コザ方面

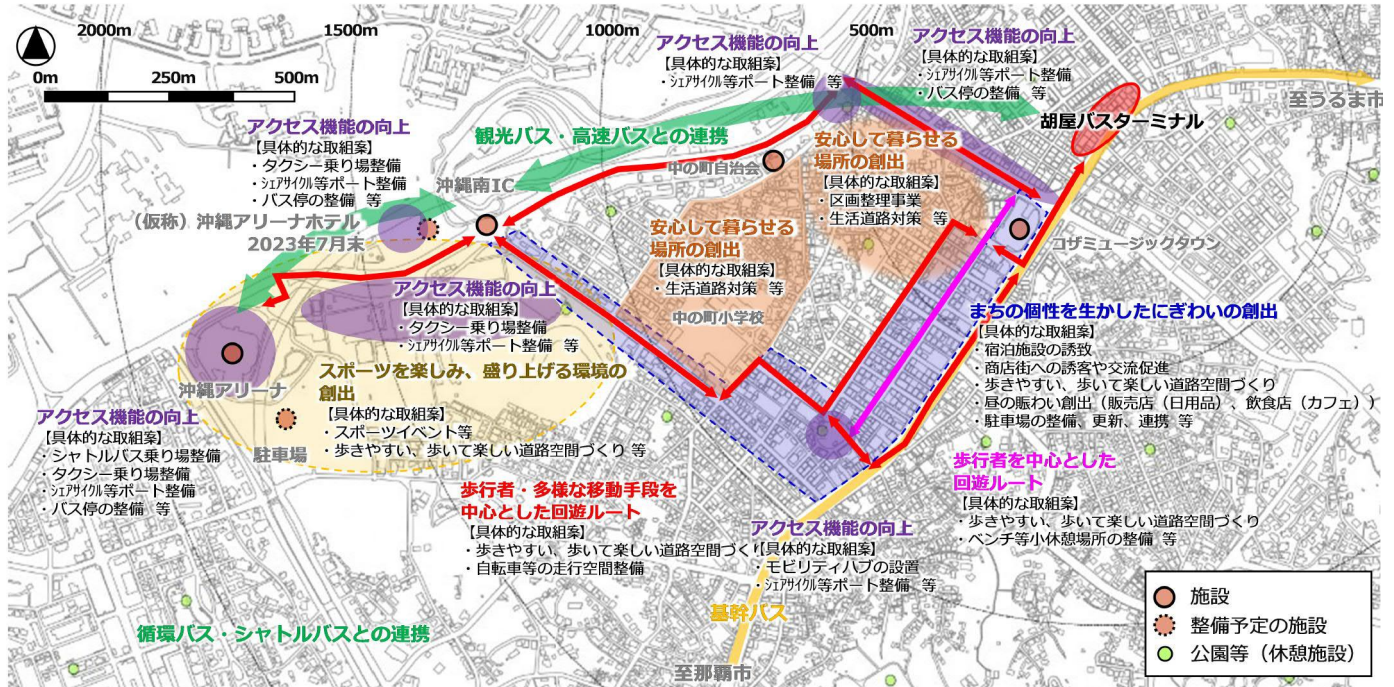
- ・ まちの個性(商業・文化・歴史)をいかしたにぎわいの創出
- ・ 安心して暮らせる環境の創出

7. 方面別イメージ(①沖縄アリーナ方面)

- 沖縄アリーナ方面における3つの基本方針を基に、バスターミナルと街を結ぶための、具体的な取組案(まちづくり、回遊性向上)を整理した。

① 沖縄アリーナ方面

1. スポーツを楽しむ、盛り上げる環境の創出
2. まちの個性(商業・文化・歴史)をいかしたにぎわいの創出
3. 安心して暮らせる環境の創出

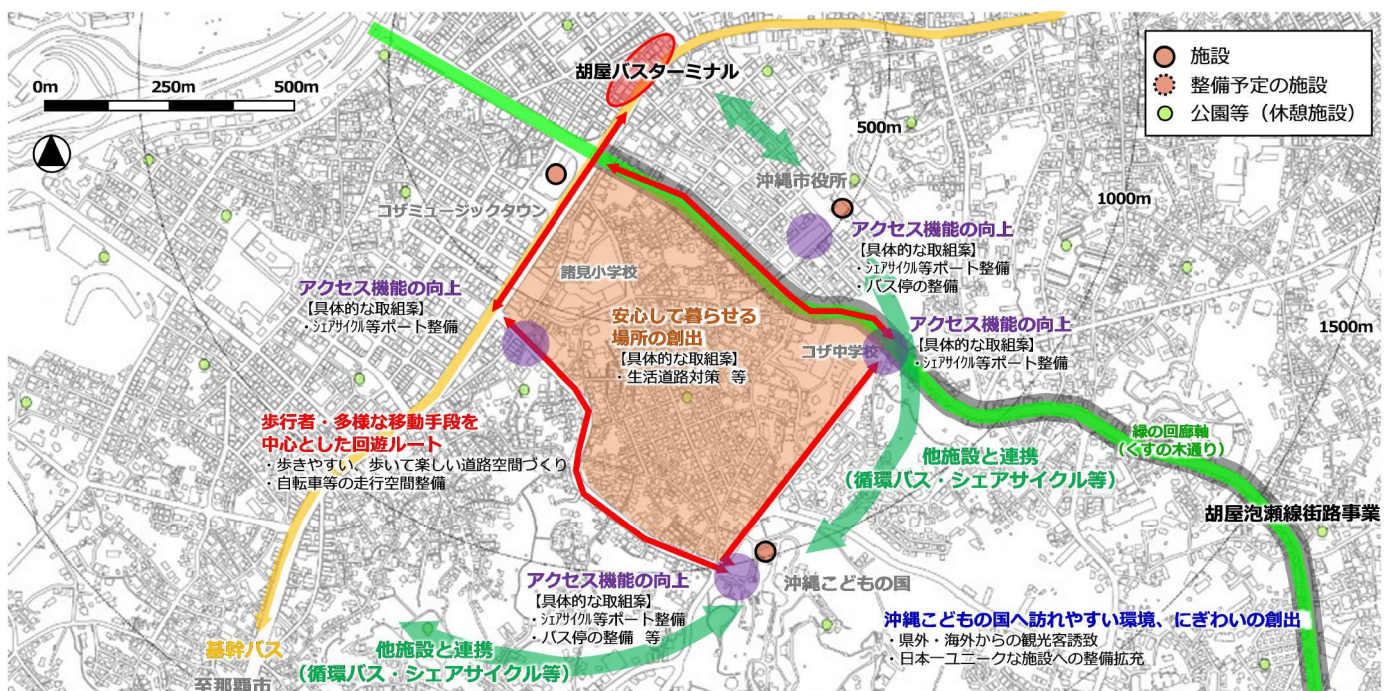


7. 方面別イメージ(②沖縄こどもの国方面)

- 沖縄こどもの国方面における2つの基本方針を基に、バスターミナルと街を結ぶための、具体的な取組案(まちづくり、回遊性向上)を整理しました。

② 沖縄こどもの国方面

1. 沖縄こどもの国へ訪れやすい環境、にぎわいの創出
2. 安心して暮らせる環境の創出

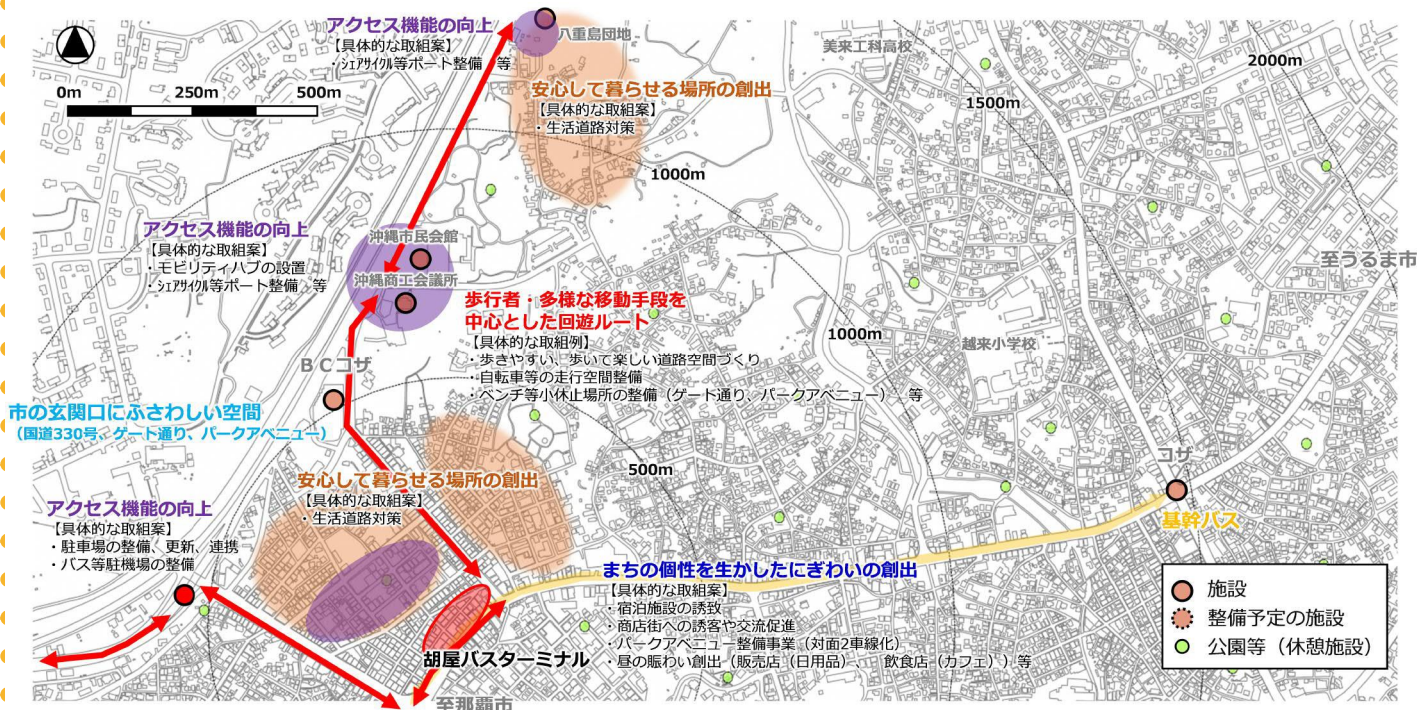


7. 方面別イメージ(③一番街・八重島方面)

- 一番街・八重島方面における3つの基本方針を基に、バスターミナルと街を結ぶための、具体的な取組案(まちづくり、回遊性向上)を整理しました。

③ 一番街・八重島方面

1. まちの個性(商業・文化・歴史)をいかしたにぎわいの創出
2. 安心して暮らせる環境の創出
3. 市の玄関口にふさわしい空間の創出

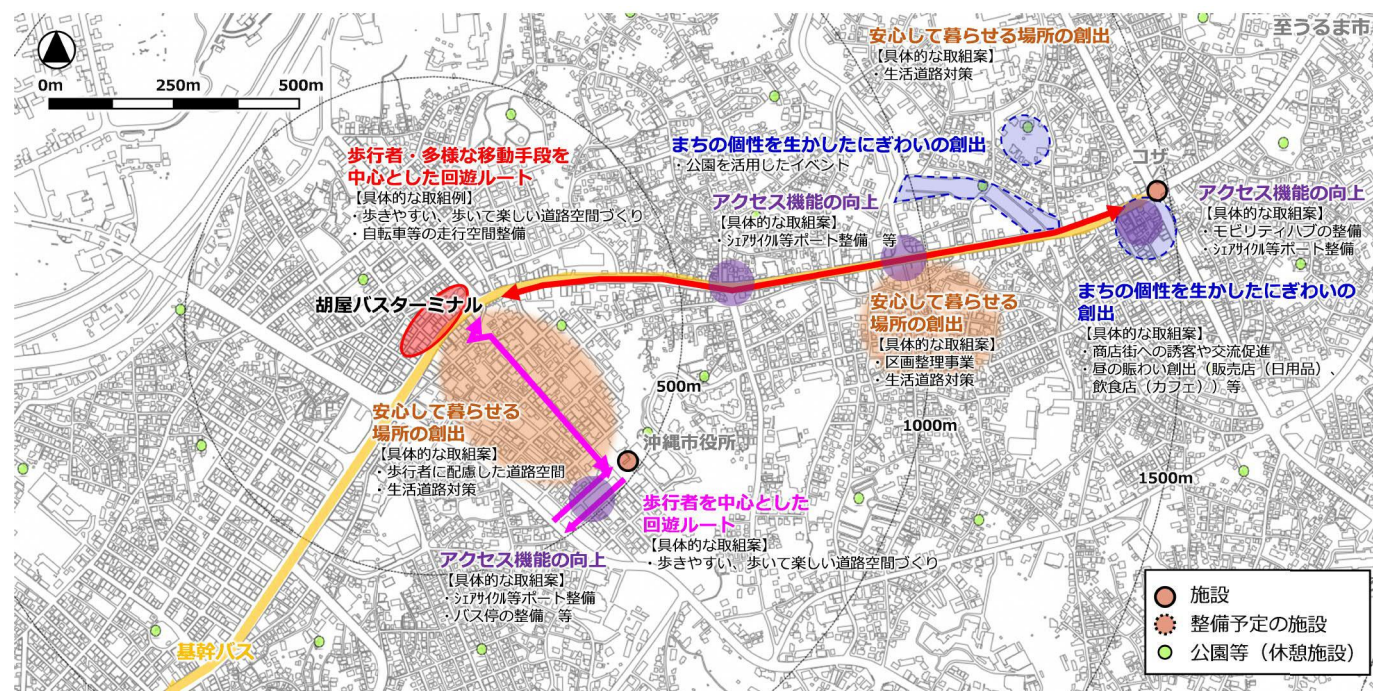


7. 方面別イメージ(④沖縄市役所・コザ方面)

- 沖縄市役所・コザ方面における2つの基本方針を基に、バスターミナルと街を結ぶための、具体的な取組案(まちづくり、回遊性向上)を整理しました。

④ 沖縄市役所・コザ方面

1. まちの個性(商業・文化・歴史)をいかしたにぎわいの創出
2. 安心して暮らせる環境の創出



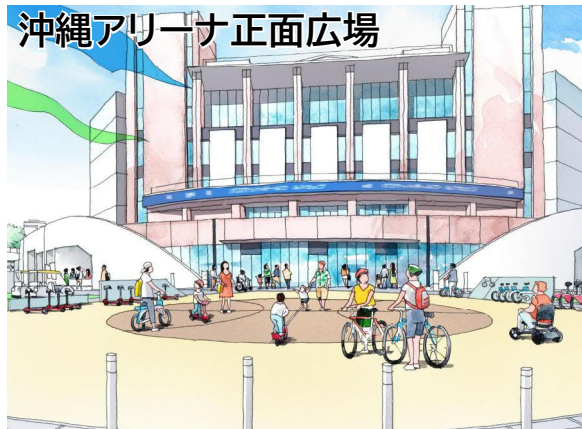
8. イメージパース

① 沖縄アリーナ方面

ゲート通り

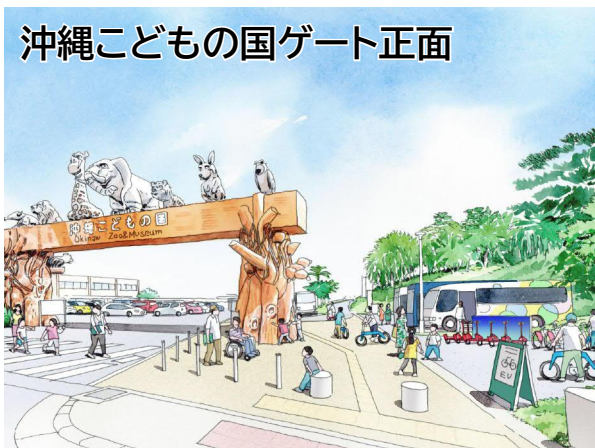


沖縄アリーナ正面広場

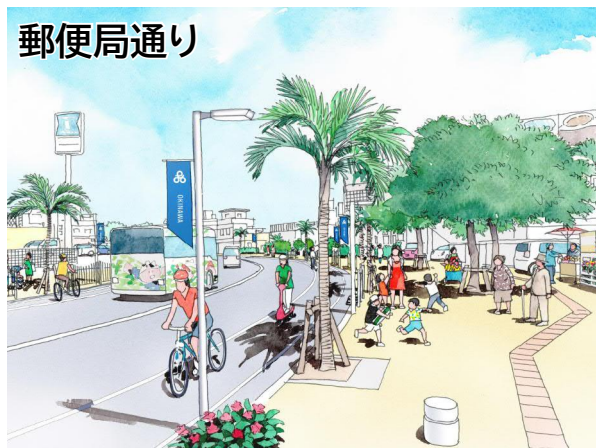


② 沖縄こどもの国方面

沖縄こどもの国ゲート正面

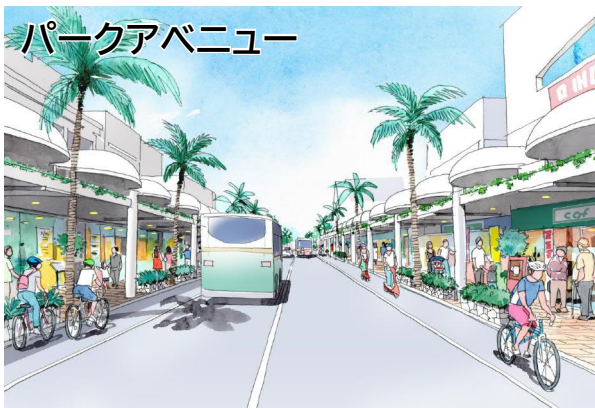


郵便局通り

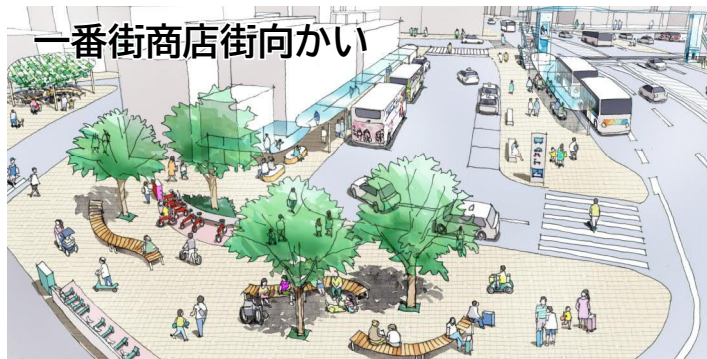


③ 一番街・八重島方面

パークアベニュー



一番街商店街向かい

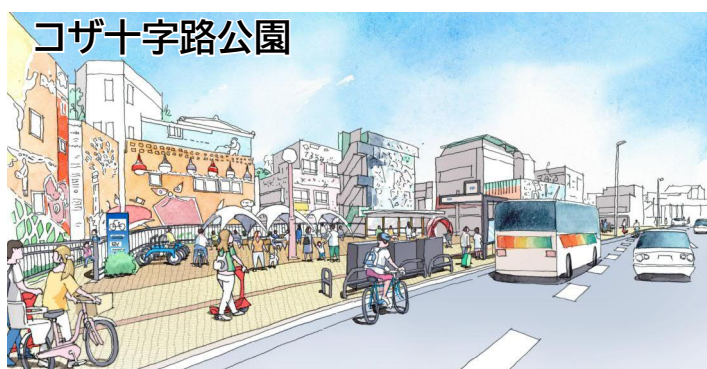


④ 沖縄市役所・コザ方面

沖縄市役所前広場



コザ十字路公園

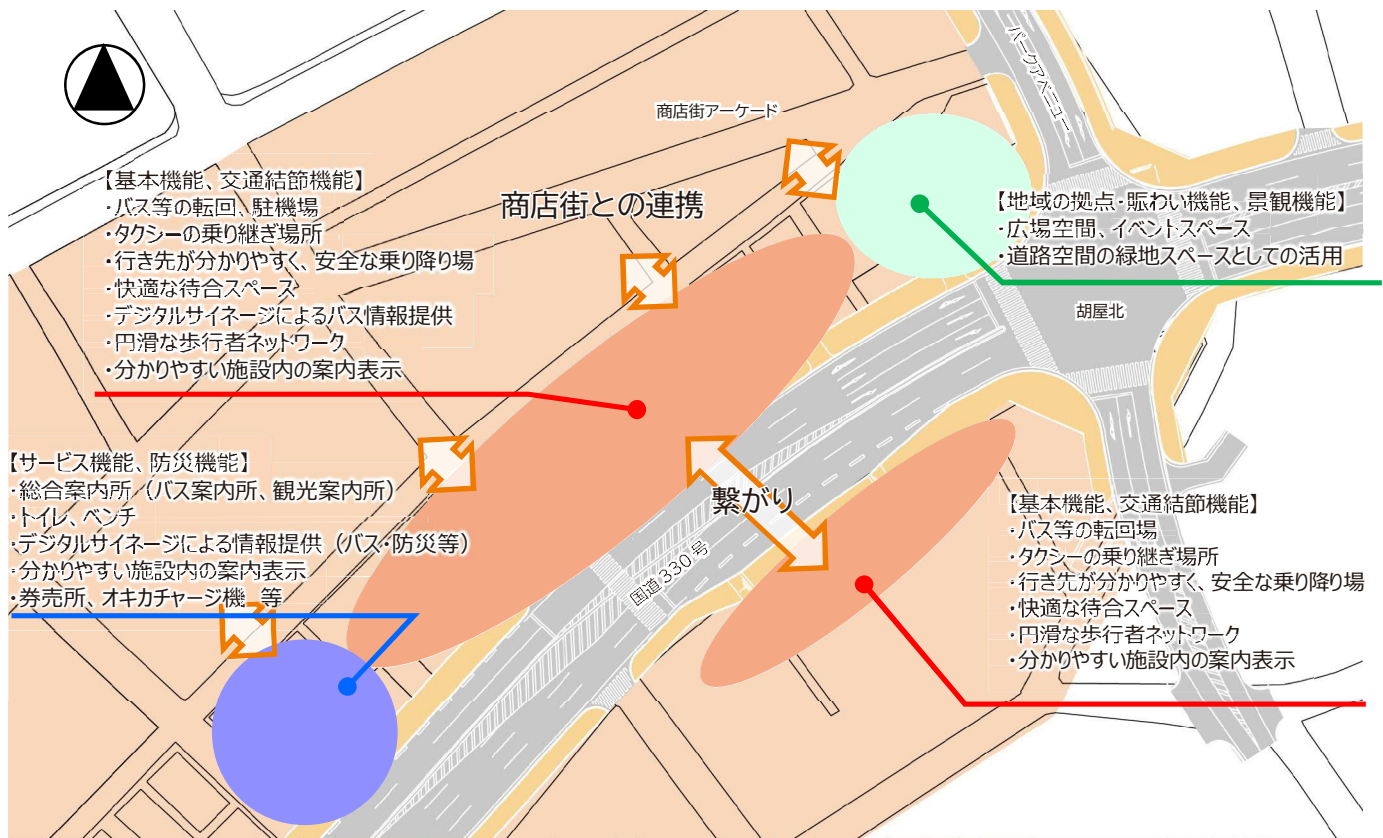


9. 交通結節点整備イメージ

- 胡屋バスターミナルの機能について、令和3年度に検討した内容を基に、意見交換等を踏まえイメージの更新を行った。

○胡屋バスターミナルの機能（案）

※下記の図は配置（案）であり、決定したものではありません。



10. 今後の課題

(1) 検討体制の構築

- 次年度も基本構想の策定に向けた検討を継続。検討内容に応じた関係者の追加
- 沖縄県公共交通活性化推進協議会の連携計画（基幹バスシステムの推進）や国の胡屋北交差点改良事業等との連携

(2) 交通拠点まちづくりの機運醸成

- 地域や商店街、まちづくり関係者を対象とした機運醸成の取組を実施

(3) 胡屋・中央地区の魅力向上

- 沖縄アリーナや沖縄こどもの国等、各施設へ来訪した人々を胡屋・中央地区へ引き込むため、バスターミナルと連携した取組の検討
- 商業空間や居住空間のほか、就業空間の創出も視野に検討を実施

(4) バスターミナル機能の向上及び交通拠点まちづくり

- 国道330号を挟んだバスターミナル案の動線や回遊性を考慮し、立体的な繋がりを検討
- バスターミナルを中心とした回遊性を高めるため、シェアサイクルの導入や歩行環境の向上（例：日陰空間の創出等）
- 路線バスやタクシーのほか、修学旅行等の観光バスやイベント時のシャトルバス、沖縄市循環バス等の結節を踏まえた規模や配置等の検討
- 交通結節点整備内容の具体化、国道拡幅の進捗に応じた段階的な整備案等の整理
- 将来的なバスターミナル周辺施設整備等も考慮し、ターミナルの管理運営も見据えた、民間事業者へのサウンディング調査の実施

11. 機運醸成に関する取組

- 地域住民等との意見交換会等の実施にあたり、地域住民等に対して、対象範囲における交通・回遊を踏まえた交通拠点整備基本構想（案）について、合意形成を図るためのワークショップ（1回）及び、機運醸成を図るための意見交換会・講演会（1回）の実施を行った。

○ワークショップ開催の様子



○講演会開催の様子



タイトル：『人と地域の魅力をつなぐ“Local Hub”のつくり方(盛岡バスセンターの事例から)』
講師：岡崎 正信（株式会社オガール代表取締役）

- 公共施設を造り維持することについて、時代の変化に多様に変貌する可能性を踏まえ、フレキシブルな建築仕様、ランドスケープの重視、複数コンテンツとの相乗効果が重要。
- 盛岡バスセンターの事例紹介では人と地域の魅力を繋ぐ結節点として「ローカルハブ」を目指すとして紹介。盛岡バスセンターの役割として、「別に目的がなくとも、そこにいることを許す盛岡バスセンター」がローカルハブの本質であるとされている。
- また、地域課題（都市の再構築、まちの活性化）の解決のため、「行政は民間との連携を加速する」、「盛岡バスセンターを柔軟に使いこなす」の2つの考え方を中心に取り組みが行われていることを紹介。
- 沖縄市のバスターミナルへの期待として、「雑多であり多様であり寛容なバスターミナル」が提案され、古い町並みの活用、食、文化、北部と南部の結節点、レンタカーや那覇空港との連携等が挙げられた。
- バスターミナル整備をきっかけに、地域の関係者が当事者となり、価値を一緒につくっていくことが重要であることが挙げられた。

12. 検討委員会の開催

- 本検討では、沖縄市交通拠点整備基本構想検討委員会において、関係者からの意見を頂きながら検討を進めた。

○令和4年度 沖縄市交通拠点整備基本構想検討委員会開催の様子

第1回



第2回

